

城下町 — 八代市 —

八代市は城下町から発展した文化・工業・田園都市である。現在の八代城は元和五年（一六一九）加藤右馬允正方が築いたものである。その後、細川忠興が住し、正保二年（一六四五）薩摩に対する備えとして松井の居城となり三万石を領した。寛文十二年（一六七二）落雷で焼け石灰岩の石垣だけが残っている。数年前完成した「文化の殿堂」厚生会館は城と隣接し、「古い城」と「新しい城」の美しいコントラストが見事に描き出されている。

